

令和6年度 津山市立中正小学校 学校評価書

(A:目標を上回った B:ほぼ目標どおり C:目標を下回った)

学校経営目標等	具体的計画	今年度の取組と達成基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)		分析・改善方策	学校関係者評価
			達成状況	評価	達成状況	評価		
(1)学力を向上させる 【確かな学力】	① 校内研修を充実させ授業改善を進め、児童の学習意欲を引き出し、学力向上を図る。	・NIE を活用した研究授業を計画的、組織的に進め、読解力の向上を目指す。 ※1「自分の考えを発表できる。」80%以上 ※2「先生はわかりやすく教えてくれる。」85%以上	・研究授業は計画通りできており、読解力のトライステップを踏まえた、NIE の活用に取り組み、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善に取り組んでいる。 ※1 84.4(56.5)% ※2 95.1(80.1)% *()親上位	A	・NIE 実践指定校として、2年間、読解力向上のための教育活動を校内研究の中心に据え、授業改善に取り組んだ。本校独自の「読解力のトライステップ」をベースに、情報活用能力を高め、主体的・対話的で深い学びを目指す授業作りに取り組み、授業研究を通じ授業改善に全職員で取り組めた。新聞制作においては、ICT 機器の活用も含め表現力の向上が見られた。 ※1「自分の考えを発表できる。」と答えた児童は、91.5(59.2)% ※2「わかりやすく教えてくれる。」と答えた児童は、90.2(77.0)%	A	・学力向上や読解力向上に向けた授業改善に取り組み、NIE の取組の成果と課題を次年度に生かしながら学校全体で引き続き取組を継続する。 ・家庭学習と授業つなぐICT活用を進め、自ら学ぶ児童の育成を推進する。 ・家庭でのメディアの使用状況は課題が残る。引き続きPTAとも連携を図り改善していく。	・特にNIE 最優秀奨励賞受賞など、子どもたちの能力を育む上で有効な方法だと思った。 ・NIE は主体的に取り組んで、経験しながら取組みの成果が出ている。 ・子どもたちが新聞に目を通して、文を読むことはよい。 ・画像や動画などのメディアを通して情報に触れる機会が多いが、はよくみるけど、新聞の活字に触れることが少ないので、とてもよい。 ・NIE は、まとめる力として国語力が育つ。また、構成を考えるため見出しを考えたり、デザインを考えたり構想力が育つ。今後も NIE を活用した教育活動に取り組んでほしい。
	② 朝学習や補充学習、家庭学習を充実させ、基礎学力を定着させる。	・個別最適化された補充学習プリントやAIドリルを活用し補充学習に取り組み基礎学力の定着を図る。2~6 年で放課後補充学習に取り組む。 ※3「学力が定着するよう取り組んでいる」85%	・学力学習状況調査の結果は、3年生と5年生の国語で全国を下回ったが、他の学年、教科は全国平均以上であった。	A	・個別最適化されたプリントや AIドリルを用い、学校全体で補充学習の取組ができた。 ※3「学力が定着するよう取り組んでいる。」と答えた保護者は92.9(28.6)%であった。	A	・学力向上や読解力向上に向けた授業改善に取り組み、NIE の取組の成果と課題を次年度に生かしながら学校全体で引き続き取組を継続する。 ・家庭学習と授業つなぐICT活用を進め、自ら学ぶ児童の育成を推進する。 ・家庭でのメディアの使用状況は課題が残る。引き続きPTAとも連携を図り改善していく。	・特にNIE 最優秀奨励賞受賞など、子どもたちの能力を育む上で有効な方法だと思った。 ・NIE は主体的に取り組んで、経験しながら取組みの成果が出ている。 ・子どもたちが新聞に目を通して、文を読むことはよい。 ・画像や動画などのメディアを通して情報に触れる機会が多いが、はよくみるけど、新聞の活字に触れることが少ないので、とてもよい。 ・NIE は、まとめる力として国語力が育つ。また、構成を考えるため見出しを考えたり、デザインを考えたり構想力が育つ。今後も NIE を活用した教育活動に取り組んでほしい。
	③ 端末を活用した探求的な学びを充実させる。	・ICT 活用 STAGE3」を目指した各教科や教科横断的な授業における探求的な学習 ・端末での学習指導の充実と家庭学習の習慣化 ※4「学校は、ICT 機器(タブレット等)を活用して効果的に学習指導の充実に努めている」80%	・総合的な学習における「まとめ表現」場面で、端末を積極的に活用している。また、navima を家庭学習の課題とし、習熟を図っている。	A	・発達段階に応じ、navima による基礎学力の習熟に全校で取り組めた。 ・「まとめ・表現」の場面で、積極的に端末を活用した。 ※4「学校は、ICT 機器(タブレット等)を活用して効果的に学習指導の充実に努めている」76.2(24.4)%	B	・学力向上や読解力向上に向けた授業改善に取り組み、NIE の取組の成果と課題を次年度に生かしながら学校全体で引き続き取組を継続する。 ・家庭学習と授業つなぐICT活用を進め、自ら学ぶ児童の育成を推進する。 ・家庭でのメディアの使用状況は課題が残る。引き続きPTAとも連携を図り改善していく。	・特にNIE 最優秀奨励賞受賞など、子どもたちの能力を育む上で有効な方法だと思った。 ・NIE は主体的に取り組んで、経験しながら取組みの成果が出ている。 ・子どもたちが新聞に目を通して、文を読むことはよい。 ・画像や動画などのメディアを通して情報に触れる機会が多いが、はよくみるけど、新聞の活字に触れることが少ないので、とてもよい。 ・NIE は、まとめる力として国語力が育つ。また、構成を考えるため見出しを考えたり、デザインを考えたり構想力が育つ。今後も NIE を活用した教育活動に取り組んでほしい。
	④ 家庭を巻き込みながら、家庭学習の習慣化とつまずき解消、学力の定着を図る。	・PTA と連携を図り、「家庭でのきまりを定める。」※5 70%以上 ・各種調査結果を家庭に返すことで、家庭を巻き込みながらつまずき解消を図る。 ※6「家庭学習の目標達成率」85%以上	・PTA と連携を図りながら、メディアコントロール週間の集計と「メディア3カ条」「家庭学習時間とメディア時間の記録」の取組を行った。 ※5 93.9% ※6 97(68.9)% *()親上位	A	※5「家庭でのきまりがある。」と答えた児童は83.9% ・「家庭学習の目標達成率」92.6% ※6「学力に関わる各種調査結果を児童や家庭に返し、家庭の協力を得ながらつまずき解消の取組みができた。」	A	・学力向上や読解力向上に向けた授業改善に取り組み、NIE の取組の成果と課題を次年度に生かしながら学校全体で引き続き取組を継続する。 ・家庭学習と授業つなぐICT活用を進め、自ら学ぶ児童の育成を推進する。 ・家庭でのメディアの使用状況は課題が残る。引き続きPTAとも連携を図り改善していく。	・特にNIE 最優秀奨励賞受賞など、子どもたちの能力を育む上で有効な方法だと思った。 ・NIE は主体的に取り組んで、経験しながら取組みの成果が出ている。 ・子どもたちが新聞に目を通して、文を読むことはよい。 ・画像や動画などのメディアを通して情報に触れる機会が多いが、はよくみるけど、新聞の活字に触れることが少ないので、とてもよい。 ・NIE は、まとめる力として国語力が育つ。また、構成を考えるため見出しを考えたり、デザインを考えたり構想力が育つ。今後も NIE を活用した教育活動に取り組んでほしい。
(2)心を育てる 【豊かな心】	⑤ 生徒指導や人権教育を充実させ、いじめや不登校の未然防止に努める。	・児童アンケートを毎月行い、子どもの不安感や悩みを早期に捉えいじめ等の未然防止に努める。 ・新たな不登校を出さないために、生徒指導主事を中心に情報連携行い初期対応を行う。	・ポジティブな行動支援を学級経営に位置付け、各学年で意図的・計画的な行動支援に取り組んでいる。「ありがとう週間」の取り組みも定着し、学校全体でポジティブな行動支援の取り組みに取り組んでいる。	A	・児童が活躍できる機会を通じ達成感や充実感を得ることができた。 ・年間を通して、学校全体で非認知能力の育成の取り組みを推進できた。	A	・児童会活動や行事等で、より児童が主体的に活動できるよう引き続き取組を継続する。 ・学校全体は、落ち着いたことから、家庭と連携しながら「非認知能力の育成」を図り、引き続き積極的な生徒指導を推進する。	・子どもたちが落ち着いて、お互いのことをわかり合っていてよい。 ・学年関係なく遊んでおり先生もよく遊んでいることが素晴らしい。
	⑥ 子ども達の主体的な活動を積極的に取り入れ、落ち着いた学校づくりを推進する。	・各種行事や活動を通して、児童が主体的に活躍する場面を意図的につくり、達成感や自己肯定感を高める。また、学校生活全般を通じ、児童が適応的で望ましい行動がとれるよう意図的にポジティブな行動支援を行い、やりがいや達成感を育む。 ※7「自分には良いところがある」80%以上	・6年生をリーダーとする縦割り班活動による、異学年交流や委員会活動が主体的に、活発に行っている。 ※7 94.6(59.9)%	A	・学校全体としては落ち着いた生活ぶりであり、児童会や縦割り班活動による取り組み等児童の主体的な活動が功を奏している。 ※7「自分には良いところがある。」と答えた児童は95.4(72.3)%	A	・児童会活動や行事等で、より児童が主体的に活動できるよう引き続き取組を継続する。 ・学校全体は、落ち着いたことから、家庭と連携しながら「非認知能力の育成」を図り、引き続き積極的な生徒指導を推進する。	・子どもたちが落ち着いて、お互いのことをわかり合っていてよい。 ・学年関係なく遊んでおり先生もよく遊んでいることが素晴らしい。
(3)個別の課題を抱える児童の組織的指導を充実させる 【特別支援教育】	⑦ 特別な支援を必要とする児童のニーズに応じた、きめ細かな指導を充実させる。	・気づき表を作成と見直しを行いながら、児童のニーズを全職員で共有する。 ・児童の支援方法を全職員が共通理解し実践するために、毎週金曜日に児童の実態交流を行う。 ・適時、ケース会議を持ち、個に応じた適切なサポートを行う。 ※8「学校が楽しい。」90%以上	・新たな気づき表により、児童のニーズの把握につとめ、職員で共有した。 ・特支ナビによるサポートミーティングで、児童理解、支援の在り方について研修を深め、個に応じた支援を組織的に進めている。 ・金曜日に、児童理解の時間をもち、全職員で共通理解を図った。 ※8 93.3(67.1)%	B	・気になる児童、特別な支援を必要とする児童のケース等を機動的に行うことが出来、適切な支援ができた。また、SC やSSW、関係機関とも情報連携行動連携ができた。 ※8アンケート調査から、「学校が楽しい。」と言っている児童は、94.7(66.0)%	A	・様々な課題を抱える児童に対し、個別にきめ細かな対応を行うことでいい方向へ向かっている。 ・SC、SSW、関係期間との連携を密に行い、適切な支援につなげる。	・全職員で子どもの様子を共有しているのがよい。 ・個別の課題を抱える児童に対しても学校とのつながりが途絶えていないのがよい。
(4)信頼される学校づくり 【保護者や地域との連携】	⑧ 地域学校協働本部事業を活用して地域学習に取り組むとともに、児童の地域貢献活動を推進する。	・学校支援ボランティアの学校支援の機会を積極的に設定し地域との交流を促進する。 ・地域貢献活動を教育課程に位置づけ、児童会を中心とした活動を企画する。 ※9「必要な情報を発信できている。」90%以上	・様々な体験活動に多くの地域ボランティアに参加していただき豊かな体験ができた。 ・「春のウォークラリー」では、清掃活動を行い地域貢献の素地が養えた。	A	・久米ふるさと祭りでの掲示発表を公表の機会と捉え、NIE で取り組んだ成果を発表することができた。 ※9「必要な情報を発信できている。」は90.5(54.8)%であった。	A	・学校支援ボランティアによる協働活動は円滑に動いており引き続き取組を継続する。 ・「春のウォークラリー」の活動を引き続き継続する。 ・家庭教育の充実に向け、PTA と連携する。	・メディアコントロールは学校ができることは限界がある。 ・家庭でのメディアコントロールの取り組みに引き続き取り組んで行く必要がある。
	⑨ 学年PTA で家庭教育のあり方や子育てについて学び合う。	・各学年で子育て等について学ぶ機会をもつ。 ・「メディアコントロール週間」の取組を通して家庭教育の充実を図る。 ※10「メディアの時間が2h以上」30%以下	・中学校ブロック全体でも意義を確認し「メディアコントロール週間」の取り組みは計画通り行っている。 ※10 38.8%	A	・計画したメディアコントロール週間を確実に実施し、家庭の協力を得ながら、家庭学習の時間確保やメディアの時間の取組みができた。 ※10「メディアの時間が2h以上」40.5%	B	・学校支援ボランティアによる協働活動は円滑に動いており引き続き取組を継続する。 ・「春のウォークラリー」の活動を引き続き継続する。 ・家庭教育の充実に向け、PTA と連携する。	・メディアコントロールは学校ができることは限界がある。 ・家庭でのメディアコントロールの取り組みに引き続き取り組んで行く必要がある。
(5)保・幼・こ・小・中連携を進める 【滑らかな接続と緩やかな連携】	⑩ 幼児と児童の情報交換や交流活動を通じて、小1問題を防ぐ。	・保幼こ小連絡会、担当者の園訪問、体験入学等を通じて情報交換しながら、園児・保護者の不安を軽減し小1問題を未然に防止する。 ・久米こども園については、保護者向けの「小学校入学に向けて」の講演会を行う。	・久米こども園との情報交換は行えた。 ・新入児童参加の行事は年間 3 回教育課程に位置づけている。	B	・担当者の園訪問、体験入学、入学説明会での親プロなどが計画通り行えスムーズな連携・接続のための連携が行えた。	A	・保幼こ小のスムーズな接続により、小1 問題の解消に努める。 ・教科担任制は、中1ギャップ解消に有効であることから、今後も積極的に取り組んでいく。	・保幼こ小連携では、今年度も計画した取り組みが着実に進んでおり、今後もこども園との連携を密にとりながらスムーズな接続に取り組んでほしい。
	⑪ 久米中学校 B で学力向上や生徒指導等に取り組む、教科担任制により中1ギャップを解消する。	・高学年の理科・国語(書写)教科担任制を行い中1ギャップの改善を図る。 ・様々な機会を通じて、小中教員間の連携を図る。	・中・高学年でのチーム担任制と教科担任制は、連動しており機能的・協働的に取り組めている。 ・久米中ブロック全体で、算数・数学の基礎的な学力の定着に向けて今後取り組む事としている。	A	・ブロック研修会ではテーマごとに、各校の取組を交流し、生徒指導の取組の充実に資することが出来た。また、授業公開、研究協議に取り組み校種を超えて取り組みを推進できたことは有意義だった。	A	・保幼こ小のスムーズな接続により、小1 問題の解消に努める。 ・教科担任制は、中1ギャップ解消に有効であることから、今後も積極的に取り組んでいく。	・保幼こ小連携では、今年度も計画した取り組みが着実に進んでおり、今後もこども園との連携を密にとりながらスムーズな接続に取り組んでほしい。